

熊本県林業研究指導所の概要

熊本県林業研究指導所 企画調査部 専技 杉野 茂人

1. 概要

熊本県林業研究指導所は、研究部門では、林木育種・育林・環境保全等に関する新しい技術の開発および木材の加工・利用等需要の拡大を図るための時代の要請に対応した試験研究を行っています。

また、普及指導部門では、研究の成果等を現状に迅速、的確に伝達し、経営の安定に資するほか、研修、講習等を行い、林業後継者等の育成を図っています。

2. 沿革

昭和37年 3月	熊本市清水町万石に庁舎完成、4月より庶務係、指導部、研究部の組織で業務開始
38年 8月	人吉市に所の分室として木炭指導室を開設
40年10月	木炭指導室に林業機械化センターを併設
48年 7月	庶務係を総務課と改称（1課2部）
51年10月	熊本市黒髪8丁目に林業技術研修センターを開設し、業務を開始
52年 6月	木炭指導室および機械化センターを廃止
52年 8月	研修部を創設し、指導部を指導調査部と改称
53年11月	熊本市黒髪8丁目に新庁舎が完成、移転
60年 6月	指導調査部を企画調査部、研修部を普及指導部と改称し、研究部を研究第一部、研究第二部に改称（1課4部制）
62年 3月	木材加工関係施設が完成し業務開始
63年 4月	研究第一部を育林特産部、研究第二部を木材加工部に改称（1課4部制）
平成 3年 4月	「育林特産部」を「育林環境部」に、「木材加工部」を「林産加工部」に改称

3. 組織

組織は所長、首席林業専門技術員、次長の下に総務課、企画調査部、育林環境部、林産加工部、普及指導部の1課4部制である。

4. 人員構成

所長 （技術）
 首席林業専門技術員 （技術）
 次長2 （事務1、技術1）
 総務課 課長、事務2、現業5
 企画調査部 部長（首席専技が兼務）、専技2
 育林環境部 部長、研究員3
 林産加工部 部長、研究員4
 普及指導部 部長（専技）、専技2、参事1
 合計27名
 内訳は事務職4名、技術職9名（内専技5名）、研究職9名、現業職5名。

5. 研究課題と研究内容および研究者名

育林環境部

林木育種に関する研究（家人龍二）

林木の遺伝的特性を明らかにし、優良形質について育種を行う。

広葉樹の育種に関する研究（家人龍二）

造林が期待できる広葉樹の増殖技術、求められる形質の遺伝様式の解明、検定技術の解明を行うとともに、優良形質木の選抜・育成を行う。

有用林木遺伝資源植物のバイオテックによる保存と増殖技術の開発（家人龍二）

バイオテクノロジーを用いて新しい優良林木遺伝資源の保存と増殖技術の開発を行う。

広葉樹の育成に関する研究（横尾謙一郎）

広葉樹人工造林および天然生広葉樹林の改良に関する施業指針を作成する。

広葉樹の管理技術に関する研究（宮島淳二）

広葉樹の病害虫防除を含めた効率的な管理技術を開発する。

地域銘柄材生産に係る生産技術開発に関する研究（横

尾謙一郎)

全国に通用する地域銘柄材生産を行うため、保育・育林施業に対する諸特性を調査し、施業体系を確立する

混交林等の多目的機能発揮に適した森林造成管理技術の開発(横尾謙一郎)

多様な森林造成のため混交林の実態を解析し、造成管理技術の開発を行う。

風害発生危険地域の判定および風害に抵抗力のある森林施業手法の解明(久保正昭・服部紀一郎)

風害の実態調査・分析を行い、風害を受けにくい森林育成手法の確率を図る。

酸性雨等森林被害対策事業(服部紀一郎・宮島淳二・家入龍二・横尾謙一郎)

酸性雨等による森林被害の実態を把握するため、全国の森林を対象とするモニタリング調査の一環として県内の調査を行う。

舞の原試験展示園造成管理事業(服部紀一郎)

造成した採種園・見本林等について、今後模範展示園として常時公開し、新品種の作出や優良遺伝子の増殖・保存を図るとともに、適正な維持管理を行う。

ヒノキカワモグリガの防除に関する研究(宮島淳二)

スギ造林地で被害の多いヒノキカワモグリガの生態を解明し、安全で効果的な防除法を確立する。

森林病害の防除に関する研究(宮島淳二)

スギ・ヒノキの林分で発生している根株腐朽病の被害実態を調査し、防除法を検討する。

シカによる森林被害の解明と防除技術の開発の基礎調査(宮島淳二)

シカによる森林被害の防止策を確立するために必要な基礎資料を得る。

林業技術体系化調査(服部紀一郎)

試験研究成果を広く一般国民にまで普及、PRする手段として、ビデオを製作する。

高性能林業機械の伐出作業システムの研究(服部紀一郎)

県内で最も多く導入されているプロセッサと集材機械との最適な作業を検討し、効率的な伐出作業システムを確立する。

森林の公益的機能に関する研究(服部紀一郎)

森林公益的機能の評価手法を確立し、各機能別に森林整備技術のマニュアル化を図る。

林産加工部

県産ヒノキ中小径材製材品の強度試験(岩下幸光)

県産ヒノキ材の材質特性を解明することにより、製材品の信頼性を確立し、需要拡大を推進する。

針葉樹製材の効率的な乾燥方法の開発(池田元吉)

スギ製材乾燥のコスト軽減と歩留向上を図るため、効率的な乾燥方法を確立する。

スギ・ヒノキ被害木の材質解明と利用技術に関する研究(池田元吉)

気象災害や害虫による被害木の材質解明と利用技術を開発する。

化学・物理処理による木質資源の利用技術に関する研究(池田元吉、荒木博章)

化学的・物理的に処理した木質材料の製造技術の研究を行うとともに、材料の利用方法を検討する。

地域産中径材を利用した住宅用高機能部材の開発(岩下幸光)

県産中径材の材質特性を解明することにより、丸太での強度等級区分法を確率する。

県産中小径材による合わせ梁等の開発(倉岡由紀子)

県産材の主流であるスギ材はヤング係数が低いことから、横架材としての普及が遅れている。そこで、集成材に比較して簡単に作成でき、強度性能にすぐれている合わせ梁等の開発を行い、スギ材の需要拡大を図る。

シイタケ原木栽培の低コスト化に関する研究(倉岡由紀子)

原木シイタケ栽培の省力化による低コスト栽培技術方法を確立する。

食用きのこ栽培技術に関する研究(倉岡由紀子)

市場の嗜好に適した新しいきのこの栽培技術を確認し農林家の経営安定を推進する。

木炭の利用技術の開発(岩下幸光)

木炭の性質を利用した環境資材としての新しい用途を開発する。

ハゼの実採取の省力化に関する研究(本田良三)

ハゼの実採取を機械化することによる省力化について、研究開発を行う。

6 その他



熊本県林業研究指導所の全景